

新聞を活用し、社会科と現代社会を結びつける授業のあり方

指定校 2 年次 栄村立栄中学校 小池 将之

本校は昨年度より 2 年間、N I E の研究指定校となり、本年度は 2 年目であった。中学 2・3 年生は昨年度から実践をしており、また本年度入学の 1 年生も平成 26、27 年度と栄小学校が研究指定校であったので既に N I E で学んでいる。そこで小学校で身につけた知識や力を生かし、さらに生徒の能力を伸ばしたい、新聞を用いることで社会に目を向けさせたいという昨年度の実践に加えて、新聞に書かれていることは遠い世界のことでなく、われわれの身近な出来事であること、普段の授業での学習と関わりがあるということを意識しながら実践を行っていきたいと考えた。

1. 校内研究・実践の具体

昨年度の実践の反省をふまえながら活動をした。研究授業は社会科で行うこととなったが、新聞を活用するために授業を構築するのではなく、今までの自分自身の授業展開の中で、新聞を活用していくことを意識した。つまり、新聞を活用するために授業を行うのではなく、生徒たちの学習の理解を深めるために新聞を資料として、あるいは導入として、利用するようにした。また社会の授業だけでなく、各教科や学活、道徳、総合的な学習の時間、朝の会、帰りの会、人権教育などなど、幅広い場面で活用を考えることを確認した。そして、5 月に行われた N I E 実践事例発表会など、他校の先行事例を参考にして、「できることから始めよう」という考えのもと、実践を始めた。

(1) 「新聞閲覧スペース」の設置

昨年度に引き続き、まずは「新聞を身近に感じられる環境作り」が重要ということで、生徒が一番通る廊下に長机を置き、「新聞閲覧スペース」を設置した。定期購読している 6 紙を生徒・職員が一緒に気軽に読める場所を設置した。普段家で閲覧している新聞だけでなく、様々な種類の新聞を閲覧出来るということもあり、休み時間などに読んでいる生徒が多く見られた。また新聞を比較しながら読む生徒も見られた。学校に来る前に見たテレビニュースに関する記事を読むなど、社会に関心を寄せる生徒が増えたと思われる。



(2) 「朝新聞」活動

10 分間の朝読書の時間に「新聞を読む」という活動を昨年度に引き続き行った。新聞閲覧スペースの新聞を朝読書の時間に、月・水曜日は 2・3 年生、火・木曜日は 1 年生といった具合に学年で割り当てられた曜日には必ず新聞を読むことにした。それまでは閲覧スペースに置いてあってもあまり新聞を読むことがなかった生徒も、新聞を読む



きっかけを作ることができた。1面を中心にその日の重大ニュースに目を通す生徒、スポーツ欄に目を通す生徒、県内の比較的身近なニュースに目を通すものなど様々な生徒がいた。

(3) 1・2年生社会科「社会科新聞」作り

夏休み中の課題として1・2年生に社会科新聞として実際に新聞を作成するという課題を設定した。それぞれの学年においてテーマを設定し、作成した。1年生は地理的分野「国調べ」、2年生は歴史的分野「人物調べ」を行った。普段読んでいる実際の新聞を参考にしながら、見出しの大きさや色使い、適切な資料の挿入などそれぞれの生徒が気を使いながら作成することができた。

(4) 1年「新聞スクラップ」

1年生は社会において世界の諸地域として各州の学習を行っている。その学習と新聞閲覧を融合させ、各州の学習の単元のまとめとして、各州の新聞記事のスクラップを行った。1年生はもともと新聞閲覧において、テレビ欄やスポーツ欄など偏った記事を読む傾向があった。おそらく一面などにはあまり興味がなかったり、その欄を読む必要感がなかったりしたためだと考えられる。そこで事前に単元のまとめとして、新聞スクラップを行うと伝えたところ、各州の国の記事を、興味をもって探す生徒が多くを占めた。またアジア州などは知っている国が多いため、すぐに探せたものの、アフリカ州などは知っている国が少ないため地図帳と新聞をセットで活用するなどし、今まで知らなかった国について知りながら新聞を読む生徒が増えた。また新聞を読みながら生徒から「アジアの記事は多いな」や「北アメリカはアメリカの記事が多い。日本と結びつきが強いからかな」、「南アメリカの記事はあまり見つからないな。日本から遠いからかな」、「アフリカはあまり知らない国が多いな」などスクラップしてみることで見える各州に対するイメージや生徒の考えを知ることができた。また、目的意識を持たせながら読むことによって普段は読まないような記事を読んだり、新聞を読む意味を体験的に知ったりすることができた。



(5) 国語科「意見文」

本校では7月に国語科で意見文を書く授業を行い、その際に、テーマを決めるに当たって新聞を用いた。授業当時に話題となっていた、「ヒアリをはじめとする外来生物の危険性」「核兵器禁止条約の採択」といった国際的な話題から、「九州を襲った豪雨の被害と私たちにできること」といった国内の話題など、様々な話題に生徒達が興味をもって調べていた。生徒達は新聞記事を読むことで、断片的にしか知らなかった話題についてより深く知り、また、新

聞記事を通して興味をもった話題に対し、自らインターネットなどの他のメディアを利用してさらに深く調べて意見文を仕上げる姿が見られた。自ら話題を決め、その話題について様々なメディアを用いて知識理解を深めることの入り口として、新聞がその役割を果たしたと言えるだろう。

(6) 道徳「人権学習」

「東京大学が一人暮らしの女子学生に3万円の家賃を補助する制度を導入する」という新聞記事や「生まれつき茶髪の生徒が黒髪に染めるよう指導を受けた」切り口に授業を行った。2つの事例から世の中には様々な差別や偏見が存在することや差別や偏見がまたあらたな差別や偏見を生み出すことについて考えを深めることができた。

2. N I E 公開授業の実践から

～新聞記事をもとに現在のヨーロッパ州やEUが抱える問題点を考える～

(1) 単元名「ヨーロッパ州」

(2) 単元展開

学習問題	学習活動・予想される生徒の反応	指導・評価	資料	時
○ヨーロッパ州とはどんなところでしょう？ ～気候に着目して～	○ヨーロッパ州の位置を確認する。 ・アフリカ州に近い国もある ・日本より北に位置している。 ○雨温図を見て、ヨーロッパ州の気候を確認する ・北海道よりも北なのに温暖な地域が多い ・夏はそんなに暑くないけど、冬も寒くないから過ごしやすそう。 ・暖流と風が影響しているようだ。	・地図帳を活用しながらヨーロッパ州の位置を確認し、日本よりも高緯度にある国がおおいことに気づかせる。 ・雨温図から、比較的温暖であることに気づかせる。	地図帳 学習カード 雨温図	1
○ヨーロッパ州とはどんなところでしょう？ ～産業に着目して～	○気候と農業の関連性について確認する。 地域によって栽培されるものや栽培方法が異なっている。 ○工業について確認する。 ・以前は世界の中心であったが、近年、地位が低下している。	・地域により異なる農業が盛んなこと、世界経済における地位が低下してきたことなどを理解する。		1
【単元を貫く問い】ヨーロッパの国々はなぜ国家間の統合を進めたのでしょうか				
○なぜヨーロッパ州は統合できたのか	○文化の共通性について学ぶ。 ・キリスト教を信仰している人が多いな。 ・言葉など色々な民族がいるけど似ている。	・多様な民族で構成されているヨーロッパ州の国々が統合を進めることができた背景には、言語や宗教の共通性に気づかせる。		1

○なぜEU加盟国は発足以来増加してきたのか	○新聞記事をもとにEU加盟国の推移を読み取る。 ・EUは加盟国が年々増加している。 ・加盟することできつといいことがあるのだろう。 ○EUの利点を新聞記事や資料をもとに考える。 ・共通通貨ユーロを導入する。 ・域内は貿易に関税がかからない。 ・モノや人の移動が自由	・EUは結成以降、加盟国が増加していることを理解する。 ・EUには様々な利点があり、それが多くの国の参加やEUの発展に役立っていることに気づかせる。	新聞資料	1
○近年EUを離脱しようとする国があるのはなぜだろう (本時)	○イギリスのEU離脱、フランスの大統領の新聞記事を読む。 ・EUを離脱したい国が増えている。 ・EUやヨーロッパには課題がある。 ○新聞記事や資料からEUやヨーロッパ州の課題を考える。 ・EUには経済格差がある。賃金の高い国へ労働者が移動している。 ・難民の受け入れに関して各国の考えが異なる。 ・スペインのカタルーニャ地方など、民族の対立が見られる。	・新聞記事からEU離脱をすすめる動きがあることに気づかせるとともに、課題を抱えていることに着目させる。 ・近年の新聞記事やそれに関連した資料を提示することで課題に気づかせる。	新聞記事 学習カード	1 本時
○ロシアはヨーロッパ諸国とどのように関わっているか	○ロシアはアジアかヨーロッパかを考える。 ○木材や鉱産資源や木材の資料から、読み取れることを考える。 ○宗教の分布に関する資料を読む。 ・ロシアはキリスト教の信者が多い。	・EUの東への拡大に伴って、ロシアとEUの結びつきが強まっていることに気づかせる。 ・宗教の面からロシアはヨーロッパとの結びつきが強いことに気づかせる。	新聞記事	1
○単元のまとめ	○今までの学習をふまえ、ヨーロッパ州に関わって気になる新聞記事をスクラップする	○今まで学習してきた国や出来事が、現代社会とつながっていることに気づかせる。		

2. 本時（7時間中の第5時）

（1）本時の主眼

ヨーロッパ連合の長所を学習した生徒が、イギリスのヨーロッパ連合離脱やフランスの大統領選がヨーロッパ連合離脱を争点としている新聞記事を読むことを通して、ヨーロッパ連合やヨーロッパ州が抱える課題や統合すること難しさに気づくことができる。

（2）指導上の留意点

- ・新聞記事を導入や問題解決の資料として使用することで、地理の学習が現実世界と直結していることに気づかせる。
- ・新聞記事の読み取りや考えることが苦手な生徒に対して、机間指導をして、どの記事を見ればいいのか、直接支援をする。
- ・EUやヨーロッパ州の課題を考えることで、今後のヨーロッパ州がどうなっていくか新聞やニュースに興味を持てるようにしていく。

（3）本時の流れ

i) 授業の様子

EUの利点について触れた生徒に対して、導入において2つの資料を提示した。提示された2つの資料の見出しから、生徒たちはいくつかの国でEUを離脱しようとする動きが見られることに気づいた。そこで学習課題を「EUを離脱しようとしている国があるのはなぜだろう」と設定した。生徒たちにその問いを投げたところ「EUはもめているのでは？」や「EUはいいことだけではないのかも」という予想が出されたので、学習課題を「EUやヨーロッパ州が抱える問題点を新聞記事などの資料をもとに考えよう」と設定した。そして3つの資料を提示し、3人一組のグループにおいて各自が1つの資料を担当し、新聞資料の読み取りを行った。その後新聞資料から読み取ったEUやヨーロッパ州の課題をグループに持ち帰り、グループ内で共通理解を図り、全体追求の場につなげた。新聞資料を読む際にはキーワードとなりそうな言葉や、グループで説明する際に必要となる場所に線を引くなど工夫をした。

【導入で使用した新聞記事】

英、EU離脱へ

東京円急騰 一時99円台
東証一時1300円超下落

国民投票 僅差の決着
世界経済混乱の不安

主権回復求めた民意

2016/6/24 付
信濃毎日新聞 夕刊

マクロン氏とルペン氏決選
仏大統領選 親EUと離脱派

欧州統合への逆風やまず

2017/4/24 付
信濃毎日新聞 夕刊

資料から読み取ったこと（生徒の学習カードから）

<資料1から>

- 西ヨーロッパは、東ヨーロッパからの移民が増えている。それは西ヨーロッパと東ヨーロッパで経済格差があるからだ。
- 貧しいところから比較的裕福なところに人が流れている。
- 難民が急増していて、その受け入れに関して国ごと対立が見られる。

<資料2から>

- 1つの国が赤字になると全体に影響をおよぼすから、ユーロへの信頼が下がる。つまり加盟国でユーロを使っている国は影響を受ける。
- ユーロに信用がなくなっている。⇒ユーロはEUの共通通貨なので、ギリシャの財政が悪化することで、ユーロ全体の信用がなくなる。
- 1つの国の経済危機がEU加盟国全体に影響してしまう。

<資料3から>

- EUは戦争のない社会を目指していたけどスペインなどでは少数民族が独立を目指すなど、対立が起きている。
- イギリスやスペインなどでは、国内で対立が生じている。

<本時のまとめ ～学習問題に対して～>

- 経済格差や経済の悪化が他の国に影響を与えるなど、対立が生じている。
- 貧しい国と裕福な国があったりと問題を抱えているので、EUを離脱しようとする国が出てきている。

ii) 授業の反省

3つの新聞記事からヨーロッパ州やEUの課題をとらえることができる生徒が多くいたが、いくつかの資料が生徒の生活経験からは読み取りが難しかったり、EUの課題としてとらえることが難しかったりした。そのため2つの資料は課題として読み取り理解できても、1つの資料が難解だったため、かえって生徒に混乱を生んでしまうことがあった。生徒に必要感のある資料の精選が必要であると感じた。また今回は各自にこちらから資料を提示したが、資料を自分で選ぶ力の育成を考えたときに、資料をどのように提示していけば良いかはさらに熟慮を重ねる必要があると感じた。



3. まとめ

授業に関しては、新聞を通じて現代社会をとらえることを視野に旬な話題や社会で起きていることを題材として授業を展開した。ニュースなどで聞いているあるいは知っている事例を取り上げたことで、勉強が苦手な生徒も意欲的にも取り組むことができていた。また社会科の授業との関連として、今まで知らない国について新聞記事を通じて学ぶことができていた。今回はEUやヨーロッパ州を取り上げたが、生徒の感想で「EUという言葉は新聞やニュースで聞いたり見たりしたことはあったけど、難しそうだったのであまり興味がなかった。だけど、今回学習したことで理解ができたので、これからは関心をもって新聞やニュースを見たい」という感想も見られた。

しかし、生徒が読む新聞記事はスポーツ欄や地域欄など偏ったページを読む傾向が見られる。今後より「社会」を広い視野で見るとためには、様々な分野の記事を読むことが大切であり、そのためには生徒が必要とすることが大切であり、今後の課題でもある。また、社会科や国語科・道徳で主に新聞を活用したがそれ以外の教科や場面でどのように新聞を活用していくかという面で課題が残った。